

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名:株式会社きぼう国際外語学院

1. 事業名称

「やさしい日本語生活情報」発信と「やさしい日本語生活情報」を使った日本語教育体制整備事業

2. 事業の目的

栃木県内には24年末時点で99ヶ国、29,627人(県人口割合1・49%)の外国人が在住しているが、そのほとんどが就労しており、日本語を学習するためのまとまった時間や、日本語学習のきっかけを得られずに過ごしている。しかし、日本語を学習する重要性は外国人本人たちも理解している。このような外国人が日本語を学ぶきっかけ、場所を得、日本の社会に積極的に参加できること、また、そのために日本人にも外国人の存在を理解してもらうことがこの事業の目的である。日本語学校、就労先、地方公共団体、FM、企業などが連携し、生活する外国人の支援する体制を整備していきたい。

3. 事業内容の概要

- 取組1:【やさしい日本語を使った生活情報発信】外国人との会議で決定したテーマについてFMラジオで専門家と外国人が討論をし、日本語教師が「やさしい日本語」で通訳をする番組を制作する。日本語学習の環境に乏しい働く外国人に、ラジオ放送を会社への送迎車や、通勤の車の中で聞いてもらい、ひとつの日本語学習としてラジオから日本語を学んでもらう。また、作成過程の中で、公共団体、企業等と外国人の接点を作り、外国人の社会参加を促す。
- 取組2:【専門家による生活情報解説と日本語学習】取組1でテーマになったものを、より細かく専門家に説明をしてもらう。それをやさしい日本語で説明しながら、そのテーマを使った日本語学習を行う教室を開催する。出来るだけ働く外国人が参加できる時間に開催し、日本語学習の環境整備をしていく。
- 取組3:【「やさしい日本語生活情報」をもとにした日本語教育シンポジウム】取組1～3について、また「やさしい日本語」「日本語教育」「生活者としての外国人」などをテーマに、違った立場からの見解や、外国人当事者の意見を出し合う。その意見交換会を広く地域住民に聞いてもらい、「生活者としての外国人」を広く住民に普及していく。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年9月19日 17:00～20:00	3時間	きぼう国際外語学院	小櫻 道信 世良 時子 堀部 俊夫 神山 英子 坂本 文子 栗又 由利子 玉木 成雄	・事業内容、運営委員会の役割 ・広報についてのアドバイス ・公共機関とのつながりについて ・この事業に期待するもの	・外国人がいる場所でのセミナー等の開催を考えてもいいのでは。 ・シンポジウムに呼べる「ゲスト」とのコンタクト方法 ・「テーマ選定」からいろいろ考えるのは難しい。前もって考えることはできないか。
2	平成25年11月29日 17:30～20:30	3時間	きぼう国際外語学院	小櫻 道信 行本 リジア 堀部 俊夫 坂本 文子 栗又 由利子 玉木 成雄	・進捗状況の報告 ・シンポジウム「ゲスト」について ・広報について ・1月～3月のテーマについて	・サントスさんの代わりは、だれがいいか。 ・小中学校にも配れないか ・テーマに合う専門家の紹介
3	平成26年3月13日 18:30～21:00	2.5時間	きぼう国際外語学院	小櫻 道信 行本 リジア 堀部 俊夫 神山 英子 坂本 文子 栗又 由利子 玉木 成雄	・各取組に対する評価、意見 ・事業全体の評価	・参加人数等が少なかったが、確実に広がっているのでは。 ・継続が必要。これから継続について考えたほうがいい。

5. 取組についての報告

○取組1:「やさしい日本語生活情報」提供番組の作成と発信

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国人、日本語教師がラジオ番組に出演することにより、地域住民に「外国人」「日本語教師」の存在をアピールすることが出来る。また、外国人にとっては、社会参加のきっかけとなり得る。
外国人が日頃疑問に感じていること、わかりづらいと思っていることを地域住民が知ることも出来る。
専門家にとっては、外国人の存在を意識できるきっかけとなるだろう。

(2) 取組内容

日本語教師と外国人、そしてある分野の専門家の3人で、日頃外国人が疑問に思っていることを話し、その話し合いの様子をFM栃木で放送する。外国人から専門家への質問、専門家から外国人への応答などのやりとりを日本語教師がやさしい日本語で通訳をする。話し合いのテーマについては、前もって行われるテーマ決定のための外国人との会議で決定していく。

(3) 対象者 ラジオの聴取者、FM番組に出演する外国人

(4-1) ラジオ番組作成参加者の総数 12 人

(出身・国籍別内訳 日本 6人、日本(元ブラジル国籍) 1人、ベトナム 1人、タイ 1人、台湾 1人、ニジェール 1人、フィリピン 1人)

(4-2) 会議参加者の総数 29 人

(出身・国籍別内訳 日本 7人、日本(元ブラジル国籍) 1人、ベトナム 2人、タイ 1人、中国 8人、ブラジル 6人、ニジェール 1人、フィリピン 1人、ペルー 1人、カンボジア 1人)

(5-1) ラジオ収録開催時間数(回数) 18 時間 (全 6 回)

(5-1) 会議開催時間数(回数) 13.5 時間 (全 5 回)

(6) 取組の具体的内容

【会議】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年8月27日 13:00～16:00	3時間	城南市民交流センター	長濱 マリセル 諏訪 アビンヤー 永池 柳 杉木 ルミ レアル マデナ ヨウジ 岡田 英美里	テーマ選定会議	・ラジオで放送するテーマを選定する
2	平成25年9月17日 16:00～18:30	2.5時間	FM栃木	永池 柳 岡本 明子 須賀 由美子 栗又 由利子	取組1評価会議	取組1に期待すること
3	平成25年11月20日 18:00～21:00	3時間	宇都宮東市民活動センター	ファタイ ティジャニ 国場 まゆみ 加島 ユリ 何 洋々 ノン ティ ビック 劉 嫻嫻 呂 琲玲	テーマ選定会議	・ラジオで放送するテーマを選定する
4	平成25年12月18日 13:00～15:30	2.5時間	きぼう国際外語学院	矢島 和枝 油川 美和 近藤 ボア 栗又 由利子 玉木 成雄	取組1評価会議	取組1の広報について、内容について
5	平成26年3月9日 10:00～12:30	2.5時間	とちぎNPOセンターばばら	細井 陽子 中里 ホンヤン 庄 佳湮 王 琳 張 君偉 マンチスナガ ビニシウス 相良 桃衣 仲間 アナ ルシア 松長 喜彦 諏訪 アビンヤー	取組1評価会議	取組1の評価

【FM放送】

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年9月17日 13:00～16:00	3時間	FM栃木 放送は10月3日	3人	タイ(1人)、日本(2人)	「生命保険」についてのラジオ放送	生命保険についての収録	栗又由利子 宇治宮義和	永池柳
2	平成25年10月25日 15:00～18:00	3時間	FM栃木 放送は11月7日	3人	ベトナム(1人)、日本(2人)	「国籍・帰化」についてのラジオ放送	国籍・帰化についての収録	栗又由利子	岡田英美里 永池柳
3	平成25年11月20日 14:00～17:00	3時間	FM栃木 放送は12月5日	3人	ベトナム(1人)、日本(2人)	「栃木県のいいところ」についてのラジオ放送	栃木県のいいところについての収録	栗又由利子 石井達也	諏訪アビンヤー
4	平成26年12月19日 16:30～19:30	3時間	FM栃木 放送は1月9日	3人	台湾(1人)、日本(2人)	「葬儀」についてのラジオ放送	葬儀についての収録	栗又由利子 高橋孝子	沈子庭
5	平成26年1月22日 15:30～18:30	3時間	FM栃木 放送は2月5日	3人	ニジェール(1人)、日本(3人)	「日本で働く」についてのラジオ放送	日本で働くについての収録	栗又由利子 小櫻道信	ファタイ ティジャニ
6	平成26年2月26日 13:00～16:00	3時間	FM栃木 放送は3月6日	3人	フィリピン(1人)、日本(3人)	「仲間を作ろう」についてのラジオ放送	仲間を作ろうについての収録	栗又由利子 小林有見子	ジェイミー ラモス

(7) 参加者の募集方法

ラジオ出演者: その分野に興味を持っている方に、直接依頼。
ラジオ聴取者: チラシを作成。栃木県内各国際交流団体に送付。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

放送は、毎月第1木曜日9:30～10:00の間の10分間であった。

<作成過程>

1. テーマ選定会議を開き、外国人に取り扱ってほしいテーマを決めてもらう(3ヶ月分)
2. 1ヶ月目のテーマに合う専門家を探し、ラジオ放送出演の交渉をする
- 3・外国人の質問事項を入れた放送台本を作成し、専門家に答えの欄を埋めてもらう。
4. FMに内容を確認してもらい、再度、専門家、外国人に台本を送る。
5. 当日簡単な打ち合わせを行い、収録。
6. FMで編集を行う。
7. 放送内容を確認する。
8. 放送。
9. CDを作成し、出演者に送付。
10. フェイスブックに音声をアップする。

<放送内容・専門家>

10月 「生命保険」	ファイナンシャルプランナー	宇治宮義和
11月 「国籍・帰化」	日本国籍取得(元ブラジル国籍)	岡田笑美里
12月 「栃木県のいいところ」	栃木県産業労働観光部観光交流課	石井達也
1月 「葬儀」	ヒューネラルスタッフ・絆	高橋孝子
2月 「日本で働く」	タカコー株式会社	小櫻道信
3月 「仲間を作ろう」	とちぎNPOセンターぽぼら	小林有見子

テーマ選定会議で、放送する「テーマ」「質問内容」を決定する。出演する外国人はその内容に興味を持っている外国人にした。専門家は、運営委員会や昨年の取組からのつながりで探した。

今回の収録、放送がスムーズにいった要因は、放送の編集を担当してくださった方が昨年の取組である「やさしい日本語地域ニュース」を担当してくださった方であること、専門家の方も昨年からつながりがある方が多かったこと、出演する外国人も昨年から取り組みに協力してくれている方が多かったからであると考えている。昨年の連携が今年度もつながれたことはこの取組にとって非常に大きく、重要なことであった。担当者はじめ、協力者が昨年から主旨を理解してくださっていることは、番組を作成するうえで、非常に重要なことである。実際に収録したものを10分という枠に収めるのは、FM栃木の仕事である。ここで、理解の相違や、目的が違ってしまった場合、こちらが描いている番組と全く変わってしまう。この共通理解が取組を成功させたと考えている。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

「外国人の存在を地域住民にアピールする」ということについては、一部の日本人には効果があったと思われる。事業全体の報告をフェイスブックにアップしたところ、「外国人の人がこういうことを考えているのは知らなかった」「へえ～と思った」などの感想が日本人からあった。また、コメントはなくとも、「いいね」してくれる日本人が多数おり、興味を持ってきていることはわかった。

参加した外国人からは、「初めての経験だった。楽しかった。」「緊張した。日本語がうまく話せたか心配」などの意見を聞くことができた。また、専門家の日本人も初めてラジオ収録をする方も多く、外国人、日本人双方で同じ経験をすることは、関係が非常に近くなるいい経験であった。

放送内容の学習教材としての使用については、放送内容をフェイスブックを使って遠隔地でも聞けるようにしたところ、この音声を使ってボランティア教室で授業をしてくださった方がいた。予想していなかった使用方法で驚いたが、こういった使用方法も宣伝していくべきと感じた。教材を使用した講師の方から、「面白かった。問題を作成して聞き取りの問題にした。外国人も興味のあるテーマでいいと思う。」という感想をいただいた。

「やさしい日本語」については、出演した日本人が番組内で少しずつ「わかりやすい日本語」を心がける様子が見られた。こちらが特にアドバイスをしたわけではない。日本語教師のやさしい日本語を聞いているうちに、自分自身の日本語を変化させていったものである。「伝えよう」とする気持ちが「わかりやすい日本語の使用」へと促したのではないだろうか。

また、ラジオを聴いた外国人のラジオ放送の感想の中には、「テーマがとてもおもしろい。回数を増やしてほしい」「いい内容だけでなく、マイナスの内容、問題なども扱ってもいいのでは」などの意見があった。その他、「日本語の先生の日本語は聞き取りやすい。やさしい感じがする」「専門家の日本語は固い。少しわかる」など、「やさしい日本語」への感想も聞くことができた。

取組全体として、目的に沿った活動ができた。ラジオ収録後の、外国人の晴れやかな顔、日本人と外国人の笑顔の関係を見るとき、外国人の社会参加のきっかけ、日本人の外国人理解を少し後押しできたのではないかと感じた。また、ラジオを通して、地域住民である日本人が少しでも「へえ」と関心を示し、外国人の存在を意識し、日本語で話しかけても大丈夫、やさしい日本語ってよくわかるなあという感想を持ってくれるとありがたいと思う。

(10) 改善点について

やはり、広報である。外国人がラジオ放送を聞くことはあまりない。外国人のために、CDを作成し、各国際交流協会に送付したが、実際に使用されたかどうかはわからない。しかし、フェイスブック上の音声を使って、遠隔地で教材として使用してくださった方もいた。各教室の取組方ではあるが、「使用方法」のようなものを作成して、一緒に配付することもできるのではないかと感じた。

ラジオ放送自体については、聞いているのは日本人ということである。しかし、日本人を対象に放送は作られていない。このギャップをどのように受け止めるかという点が改善点である。FM栃木の広告代理店である、運営委員からは、「異質な時間が流れるが、これはこれで聞いている日本人も面白いと思う」という意見であった。昨年度は、一方的な放送であったが、今年度は外国人も出演し、相互通行になった。これをもう少し、日本人が聞いても面白い内容に変えていくチャレンジが必要だろう。そして、この放送を一人でも多くの人に知ってもらうために継続が必要であると考えている。

○取組2:「やさしい日本語生活情報」を使った日本語教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国人が生活上抱えている問題、または知らないことで不利益が生じている。そういったことも、少しの日本語学習で、解決できることがわかれば、日本語の学習意欲も生まれる。日本社会でよりよく生きていくための日本語講座とする。

(2) 取組内容

外国人が生活上抱えている問題、または知らないことで不利益が生じている。そういったことも、少しの日本語学習で、解決できることがわかれば、日本語の学習意欲も生まれる。日本社会でよりよく生きていくための日本語講座とする。

(3) 対象者 栃木県に住む外国人

(4) 参加者の総数 171人

(出身・国籍別内訳 中国 106人、ベトナム 15人、日本 13人、ネパール 8人、タイ 6人、ブラジル 5人、ペルー 4人、台湾 4人、カンボジア 1人、ケニア 1人、ロシア 1人、インド 1人、シリア 1人、アルバニア 1人、ナイジェリア 1人、フィリピン 1人、インドネシア 1人)

(5) 開催時間数(回数) 54 時間 (全16回)

(6) 取組の具体的内容

【会議】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年9月15日 13:00～16:00	3時間	きぼう国際外語学院	世良 時子 神山 英子 細井 陽子 松浦 真理子 栗又 由利子	・取組2授業について ・方法、内容の検討	・専門家と一緒に授業では、どのように日本語教師が授業を行うのか。 ・PPTの作成、「日本語」の授業をどう入れていくか。
2	平成25年10月26日 17:00～20:00	3時間	きぼう国際外語学院	世良 時子 神山 英子 細井 陽子 松浦 真理子 栗又 由利子	・専門家との授業分担について ・どのような形の授業が受け入れられるのか	・専門家との打ち合わせをもう少し密に行う。 ・講義式ではなく、参加型になるよう配慮したい。
3	平成25年12月25日 18:00～21:00	3時間	きぼう国際外語学院	世良 時子 神山 英子 細井 陽子 松浦 真理子 栗又 由利子	・参加者の募集について ・今後のテーマと日本語教師のかかわり	・参加者を増やすために宣伝方法を変えてはどうか。 ・日本語教師の存在は、どうあるべきか、日本語教師の価値を見出せる授業の展開。
4	平成26年3月3日 18:00～21:00	3時間	喫茶室ルノアール ニュー新宿3丁目店	世良 時子 神山 英子 細井 陽子 松浦 真理子 栗又 由利子	・取組2についてのまとめ	・専門家が「外国人」「やさしい日本語」「日本語教師」に触れられたことがよかった。 ・募集方法。開催場所を検討すべき。

【日本生活セミナー】

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成25年10月6日 13:00～15:00	3時間	那須公民館	1人	台湾(1人)	生命保険	生命保険の内容や、申込書の日本語などを学習する	栗又由利子 朝倉直也	
2	平成25年10月13日 13:00～15:00	3時間	小山城南市民 交流センター	8人	ベトナム(1人)、タイ(2人)、ブラジル(2人)、ペルー(2人)、中国(1人)	生命保険	生命保険の内容や、申込書の日本語などを学習する	松浦真理子 朝倉直也	
3	平成25年10月20日 13:00～16:00	3時間	宇都宮市東市 民活動センター	0人		生命保険	生命保険の内容や、申込書の日本語などを学習する	神山英子 永池 高明	
4	平成25年11月17日 13:00～16:00	3時間	小山城南市民 交流センター	6人	中国(2人)、ベトナム(1人)、ペルー(1人)、カンボジア(1人)、日本(1人)	国籍・帰化	帰化をした外国人に帰化をした感想等を聞きながら、帰化に必要な日本語を学ぶ	栗又由利子	岡田笑美里 林蓉子
5	平成25年11月23日 13:00～16:00	3時間	宇都宮市東市 民活動センター	12人	ブラジル(3人)、ペルー(1人)、中国(2人)、台湾(1人)、ニジェール(1人)、ケニア(1人)、ベトナム(1人)、日本(2人)	国籍・帰化	帰化をした外国人に帰化をした感想等を聞きながら、帰化に必要な日本語を学ぶ	神山英子	唐沢岳夫 斉藤里花 林蓉子
6	平成25年12月15日 13:00～15:00	3時間	レディオベリー	9人	ケニア(1人)、ブラジル(2人)、シリア(1人)、ニジェール(1人)、アルバニア(1人)、ナイジェリア(1人)、ベトナム(1人)、日本(1人)	栃木県のいいところ	栃木県の観光地を紹介しながら、旅行や、観光地を訪れるときに必要な日本語を学習する	栗又由利子 中村仁美	

7	平成26年1月13日 13:00～16:00	3時間	姿川地区市民 センター	2人	ケニア(1人)、ニ ジェール(1人)	日本のお葬式	日本の葬儀のマナーや、遺体 を母国に運ぶ方法や、お墓に ついて専門家に聞きながら、必 要な日本語を学ぶ	神山英子 高橋孝子	
8	平成26年1月28日 17:00～20:00	3時間	きぼう国際外語 学院	5人	ブラジル(1人)、タ イ(1人)、ペルー(1 人)、日本(2人)	日本のお葬式	日本の葬儀のマナーや、遺体 を母国に運ぶ方法や、お墓に ついて専門家に聞きながら、必 要な日本語を学ぶ	栗又由利子 高橋孝子	
9	平成26年1月26日 13:00～16:00	3時間	佐野城山記念 館	6人	ベトナム(3人)、日 本(3人)	生命保険	生命保険の内容や、申込書の 日本語などを学習する	栗又由利子 永池 高明	
10	平成26年2月8日 9:00～15:00	6時間	バス	10人	タイ(5人)、ブラジ ル(2人)、ケニア(1 人)、ベトナム(1 人)、日本(1人)	栃木県のいいと ころ	実際にバスツアーとして、かま くらや防災館を訪れ、そこで出 会う日本語や、観光地などで必 要な日本語について学ぶ	栗又由利子 玉木成雄	
11	平成26年2月12日 9:00～12:00	3時間	きぼう国際外語 学院	25人	中国(25名)	日本で働く	日本で働くとき大切なことを、 そこに出てくる日本語と一緒に学 び、日本の会社について知る	栗又由利子 中村好男	
12	平成26年2月16日 13:00～16:00	3時間	宇都宮市民プ ラザ	4人	中国(2名) インド(1名) 日本(1名)	日本で働く	日本で働くとき大切なことを、 そこに出てくる日本語と一緒に学 び、日本の会社について知る	栗又由利子 阿部泰士	
13	平成26年2月21日 13:00～16:00	3時間	アティス日本語 学校	24人	ネパール(8人)、ベ トナム(7人)、中国 (6人)、台湾(3人)	日本で働く	日本で働くとき大切なことを、 そこに出てくる日本語と一緒に学 び、日本の会社について知る 日本で就職する場合の日本語 の大切さを学ぶ	栗又由利子 スクソムディ アーン ノッ ポーン	
14	平成26年2月23日 13:00～16:00	3時間	小山城南市民 交流センター	5人	タイ(1人)、ブラジ ル(1人)、中国(1 人)、ロシア(1人)、 日本(1人)	日本で働く	日本で働くとき大切なことを、 そこに出てくる日本語と一緒に学 び、日本の会社について知る	細井陽子 中村好男	
15	平成26年3月2日 9:00～15:00	6時間	バス	7人	タイ(1人)、ベトナム (2人)、フィリピン(1 人)、インドネシア(1 人)、日本(2人)	観光 仲間を作ろう	実際にバスツアーとして、茨城 県を訪れ、そこで出会う日本語 や、観光地などで必要な日本 語について学ぶ また、外国人のグループを作る 足がかりとして、ツアーに参加 した人でグループの基礎を作 る。	栗又由利子 飯島 碧梨 玉木成雄	
16	平成26年3月14日 9:00～12:00	3時間	きぼう国際外語 学院	69人	中国(69人)	日本で働く 日本の所作	和服を着た時の所作や、日本 のサービスの基礎を学ぶ 日本で働くとき大切なことを 学ぶ	栗又由利子 武 浩美	

(7) 参加者の募集方法

セミナー全体のチラシを作成。各国語に翻訳し、県内各国際交流協会に送付、または持参し説明した。
各月ごとに、セミナーの内容説明が入ったチラシを作成。翻訳も行った。このチラシについても、県内各国際交
流協会に送付。訪問できるところには訪問をし、説明と配付のお願いをした。
地域に住む外国人にも、家族や友人への配布をお願いした。
フェイスブックにセミナーの内容を載せ。参加者の募集も行った。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

＜セミナーの特徴＞

このセミナーのテーマはラジオで放送された内容を、より詳しく専門家に答えていただくセミナーである。専門家はラジオの出演者とは限らない。その分野の専門家で、都合が合う方に来ていただいた。このことにより、ラジオに出演した専門家のみならず、より多くの方へ外国人を知っていただく機会を作ることができた。また、連携、ネットワークも広げることができた。

＜授業内容＞

- ・その月のラジオ放送を聞き、アンケートに答えてもらう。
- ・その日のセミナーに出てくる「キーワード」を一覧にし、配付。
- ・パワーポイントをみながら、専門家が詳しく説明を行い、それを日本語教師がやさしい日本語に翻訳する。
- ・授業の中に出てくるキーワードを出てきたときに説明する(日本語教師)。
- ・授業のアンケートを書いてもらい、書ける方には、氏名、住所、連絡先なども、書いていただく。

＜特徴的な活動風景＞

●12月開催「栃木県のいいところ」講師:中村仁美(東武ツーリスト) 日本語教師:栗又由利子

このセミナーでは、8カ国の外国人が参加してくれた。栃木県に住んでいても栃木のいいところはよく知らなかったという。日光は有名であるが、日本の歴史を知らない人にとっては、「きれいな建物ね」「自然があっていいね」という感想しかないという。なので、母国から家族や友人が来ても、東京に連れて行くしかない。できれば近いほうがいいと思っているが、栃木県にはそういうところはないという感想だったらしい。

しかし、セミナー内で、旅行会社から説明を聞き、こんないいところがあったのかと感じたという。「いちご狩り」や「鮎のつかみ取り」など、栃木のいいところがあれば、ぜひ栃木を案内したいという感想であった。

また、このセミナーでは、日本人のご主人が参加しており、そのご主人が日本語教師のいいサポーター役となってくれた。説明をしきれない部分などは、自分でスマートフォンのインターネットで調べ、近くの外国人に写真などを使って説明してくれた。

この学習スタイルは、この取組が最終的に目指している形であり、外国人と日本人がお互いに学習し合うということは、外国人の社会参加の足がかりとなるに違いない。



●2、3月開催「バス旅行内セミナー」

2月に「栃木県のいいところ」の延長セミナーとして、バスで栃木県のいいところを回りながら、その中で、日本語を学んでいくというセミナーを開催した。

大雪の中の出発となったが、大変有意義で、楽しむことができた。バスの中で、これから行く場所についての説明や、その中に出てくる言葉や漢字をバスの中で学習していった。学習したことが、そのまま体験できたり、体験してきたことを日本語の学習として確認することは、机の上の学習と違い、大変よかったし、面白かったという感想をもらった。

3月も同じようにバスの中で学習も行ったが、「仲間作り」という目標を立て、自分たちが中心となってバス旅行を企画する場合どんなことが必要かなどを考えた。バスの中で実際次回のバス旅行の企画を立てた。バスガイドさんにも講師として添乗していただき、観光地の案内のしかたや、人とのコミュニケーションのとり方、実際に企画の中心となった場合に注意する点などを教えていただいた。



●2月開催「日本で働く」

このテーマでは、いろいろな形でセミナーを開催した。

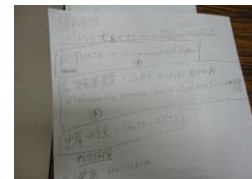
まず、実習生向けにセミナーを開催した。実習生もやはり日本で働くために大切なことなどを勉強するべきであるし、地域に長く住んでいる外国人も働くことは、大切であり、必須である。また、これから日本の働き手となる留学生も日本で働くことを学ぶことは大切である。それぞれ背景は違うが、テーマの必要性は同じであった。

背景が違うため、同じテーマでも学習内容を変えた。専門家は、実習生と地域に住む外国人は働くことが決まっていたり、実際に働いていたりするるので、派遣会社の方から、働く上で大切なこととお話いただいた。留学生には、実際に働いている外国人の方を講師に迎え、これまでの歩みについて話をしていただいた。

習慣や、仕事についての考え方の違いからトラブルになるのはもったいない。少しの学習でそのトラブルが減るのなら、その学習は有意義であると言える。また、派遣会社の日本人がそういった違いを知ることは、今後増えるであろう外国人と企業とのトラブルを未然に防ぐことなどに役立つだろう。



<その他活動写真>



(9) 取組の目標の達成状況・成果

専門家に「やさしい日本語」の存在を知ってもらうことができた。一緒に講師として参加している日本語教師が、少しずつ専門家の日本語が変化していっていることに気づいていた。始めは、自分の言葉で話しているが、そこに日本語教師の「やさしい日本語」の通訳が入ると、次に話し始めるときに、話す言葉を選んで、考えていることが見ていてわかった。セミナーの最後は、日本語教師に「これでわかるでしょうか？」という合図を目で送ったり、言葉で確認したりしていた。これは、セミナーにおける一番の成果であると感じている。

外国人にとっては、普段誰に聞いていいかわからない問題を専門家に直接聞いたことはよかったのではないだろうか。アンケートでも「楽しかった」という答えが多く、専門家の話もわかったと答えた人も多かった。これは、外国人の日本語レベルにもよるかもしれないが、専門家の日本語が変わったからだと考えてもいいのではないだろうか。

(10) 改善点について

広報活動が課題である。県内各国際交流協会などにチラシを配布しているが、そのチラシを見て参加した外国人は非常に少ない。しかし、興味があれば、参加をしてくれる可能性もある。また、今回はフェイスブックを活用したが、フェイスブックを見て参加してくれた人もいた。

テーマについては、外国人自身が選んだもので、興味のある内容ではある。実際に、参加しなかった外国人から、私も行きたかったという意見も聞いた。しかし、現実として参加者は少ない。この関係性を考えることが必要だろう。

授業内容については、専門家との連携の仕方が難しかった。外国人が知りたい情報というものを理解してもらうことは、普段外国人とあまり接点がない人にとっては、想像することも難しいようである。丁寧な説明が必要であると感じた。

○取組3:「やさしい日本語生活情報」をもとにした日本語教育シンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

「やさしい日本語生活情報」発信の成果を広く地域住民に普及することにより、外国人に対する日本語教育の重要性や、外国人自身の学習の大切さへの理解を促進する。

(2) 取組内容

「やさしい日本語生活情報」の放送後、「やさしい日本語」や「日本語教育」、「生活者としての外国人」などをテーマに、シンポジウムを行う。

(3) 対象者 栃木県民

(4) 参加者の総数 13 人

(出身・国籍別内訳 日本 5 人、中国 5 人、ブラジル 1 人、タイ 1 人、ベトナム 1 人)

(5) 開催時間数(回数) 4 時間 (全 2 回)

(6) 取組の具体的内容

【会議】

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年2月19日 13:00～16:00	3時間	宇都宮市東市民活動センター	ノン ティ ビック 本田 辰子 エリザ NEWTON LEN EDWARD KARAMI DAVID 栗又 由利子	・取組3の最終目的をどのように考えるか	・上級者向けではなく、外国人とのかかわりのない方も聞ける初級多文化共生理解を目的とする。
2	平成26年2月27日 13:00～16:00	3時間	FM栃木	世良 時子 須賀 由美子 本田 辰子 エリザ NEWTON LEN EDWARD 栗又 由利子	・取組3はどのような形が受け入れられるのか	・難しい話ではなく「へえ」と思うような話題を提供する。
3	平成26年3月9日 09:00～11:30	2.5時間	栃木県総合文化センター	世良 時子 須賀 由美子 ノン ティ ビック 本田 辰子 エリザ NEWTON LEN EDWARD KARAMI DAVID 栗又 由利子	・シンポジウムに期待するもの ・取組の継続について	・こういったシンポジウムがたくさん行われ、日本人にも理解を求めたい。 ・参加者の募集のしかた

【シンポジウム】

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年3月9日 11:30～12:30	1時間	栃木県総合文化センター	13名	日本(5人)、 中国(5人)、 ブラジル(1人)、 タイ(1人)、 ベトナム(1人)	文化庁委託事業報告 展示	委託事業の資料を展示し、説明を行う。	世良 時子 須賀 由美子 ノン ティ ビック 本田 辰子 エリザ NEWTON LEN EDWARD KARAMI DAVID	
2	平成26年3月9日 13:30～16:30	3時間	栃木県総合文化センター	13名	日本(5人)、 中国(5人)、 ブラジル(1人)、 タイ(1人)、 ベトナム(1人)	栃木県に住む外国人と考える多文化共生シンポジウム	外国人の体験談を聞き、これから訪れる多文化共生時代における「やさしい日本語」のあり方を考える	世良 時子 須賀 由美子 ノン ティ ビック 本田 辰子 エリザ NEWTON LEN EDWARD KARAMI DAVID	

(7) 参加者の募集方法

チラシを作成し、栃木県内各国際交流協会に送付、または持参。宇都宮市に後援をお願いし、チラシ作成。フェイスブックを活用し、呼びかけ。

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

シンポジウムのパネリストは、栃木県内に住む外国人4名と、日本語教師1名、総合司会としてFM栃木のパーソナリティーの方に参加していただいた。

外国人に体験談を話していただき、会場の参加者に、そういった問題を解決するアイデアを聞き、それについてまた、外国人の方と一緒に考えていくというものであった。

アイデアの中には、「やさしい日本語の活用」という意見もあり、そういった考えが自ら出てくるのが大切であるので、非常に有意義なシンポジウムであったと思われる。「日本人の意識改革」という意見もあり、こういった啓蒙活動も必要であると感じた。

プラスの意見が多く、今後も続けてほしいとの意見があった。もっとたくさんの人に聞いてもらえる工夫をしながら、こういったシンポジウムを続けていきたい。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

最後に回収したアンケートの中には、「こういった話をできるだけたくさんの人に聞いてほしい」、「外国の知らない面を知ることができてよかった」などの意見をいただいたが、その中でも、「自分と同じ体験をしていることを聞き、ひとりじゃないと思い、心強かった」という参加外国人の方からのご意見もあった。シンポジウムが、日本人だけではなく、外国人に意外な効果をもたらしているとわかり、驚いた。

また、今回のゲストスピーカーをお呼びするにあたり、たくさんの方に協力していただいた。実際には、お呼びすることはできなかったが、協力してくださった方が当校の存在や、活動を知るきっかけになった。今回は残念ながら実現しなかったが、今後の連携を可能にしていくきっかけであったと思われる。

(10) 改善点について

参加者が少なかった。別なパネリストをお呼びしようと交渉をしていたため、今回のシンポジウムの企画自体が、非常に遅くなってしまった。そのため、チラシ作成、宇都宮市の後援をいただく手続きなど、開催日ぎりぎりになってしまった。各自治体の広報なども活用したかったが、内容が確定しなかったため、広報などにも載せることができなかった。

ゲストパネリストの交渉というものを初めて経験し、非常に時間がかかるものだということ、また、資金面でも難しいということがわかった。今後は、だれを呼ぶのかあらかじめよく検討し、早めに行動をしていきたい。

その内容が確定しないと、広報活動も難しく、参加者を集めることができなくなってしまう。ゲストなどの交渉は、時間等がかかることがわかった。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

栃木県内には24年末時点で99ヶ国、29,627人(県人口割合1・49%)の外国人が在住しているが、そのほとんどが就労しており、日本語を学習するためのまとまった時間や、日本語学習のきっかけを得られずに過ごしている。しかし、日本語を学習する重要性は外国人本人たちも理解している。このような外国人が日本語を学ぶきっかけ、場所を得、日本の社会に積極的に参加できること、また、そのために日本人にも外国人の存在を理解してもらうことがこの事業の目的である。日本語学校、就労先、地方公共団体、FM、企業などが連携し、生活する外国人の支援する体制を整備していきたい。

(2) 事業目的の達成状況

各取組とも、アンケートに回答をしてもらった。アンケートには詳しくは書かれないが、終了後の立ち話や、その後の連絡のやり取りの中で、少し感想を聞くことができた。

全体的に、熱心な外国人、生活に興味を持っている外国人には好評であった。「もっと知りたい」「別のテーマでもやってほしい」「参加できず、残念だった」など、プラスの意見を多数聞くことができた。しかしそれは、実際に参加した外国人であって、外国人全体の意見ではない。一部の外国人が少しでも正しい情報を手に入れ、その情報を他の外国人に伝えてくれればいいと考えている。

この事業での最も大きな成果は、やはり、日本人に外国人の存在を知ってもらえたこと、「やさしい日本語」を知ってもらえたことであると考えている。専門家として参加した日本人の多くの方は、外国人の存在を知らない方も多かった。また、ラジオのリスナーから、「外国人の方が日本国籍取るのは大変なんですね」「へえって思うことがたくさんあった」などの意見があり、多少興味を持ってもらうきっかけ作りもできたのではないかと考えている。

またラジオ収録、セミナーに参加した専門家は、日本語教師と一緒に進めているうちに、自分の日本語を「やさしい日本語」に少しずつ自分の中で変化させていっていた。変化がなくても、セミナー中「今の言葉でよかったでしょうか?」「今の言葉は難しいですか?」「先生、なんと言ったらいいのでしょうか?」などの質問があった。これは、明らかに、対象である外国人に対して日本語の気遣いをしていることの証拠である。「やさしい日本語」を考えた瞬間であると思われる。

そういった変化の中でも、大きな変化をした方がいた。バスで仲間作りを行ったセミナーでは、バスガイドの方に講師として、観光地の案内方法や、人とのコミュニケーションについて教えていただいたが、反対にバスガイドの方から非常に勉強になったと最後にお言葉をいただいた。

「今まで描いていた「外国人」のイメージと全然違い、自分よりも前向きで、パワーがあって、本当にこういった方たちと会えてよかった。私が教えてもらいました。はじめは、「外国人」と聞いて正直、言葉が通じるのか、まして、多国籍と聞き、英語を話さなければならないかと思っていました。それに私の話を聞いてくれるのかなど不安でした。確かに、外国人学校などの生徒さんは、全然私の話を聞かない生徒さんなどもあります。でも、そういう人たちがばかりじゃないってことがわかりました。日本で、働いて生活して、そして、前向きにいろいろなことに取り組んでいるみなさんは、本当にすごい。こういう方たちとの交流って、バスガイド仲間もやってみるといいと思う。今日一日で、私の考え方はすっかり変わりました。」

(3) 地域における事業の効果、成果

聴解力があっても、文字が苦手な外国人にとって、専門的な分野に入っていくことは難しい。仲間を頼りにするしかないが、その仲間が果たして正しい情報を持っているかはわからない。そういった中で、日本語教師が間に入り、「やさしい日本語」で専門的な話を「翻訳」して、正しく理解できるということは、効果があったと思われる。実際にアンケートにも、専門家よりも日本語教師の話のほうがわかりやすいという回答が多くあった。

実際に参加者は多くないが、こういった日本語がわかる地域のキーパーソンが正しい情報を持つことが必要である。「やさしい日本語」を使えば、ある程度の日本語力をもった外国人なら、キーパーソンになることができ、それは、地域の外国人にとって有益なことであると考えられる。

長く生活している外国人は「日本語学習」ではなく、「日本生活学習」が必要であると考えている。日本語に対して、向上心はあるが、今のままでも十分生活ができる。では、足りないものはなにか。「情報」である。「情報」は文字媒体のものが多く、「生活に困らない」外国人でも文字媒体のものを理解するのは難しい。これを日本人と同じように理解できる人は数少ない。もし必要な情報であればその人を探し、聞き出さなければならない。しかし、この必要な「情報」を「やさしい日本語」で説明してもらえれば、理解の助けになり、手間を省くこともできるかもしれない。こういった考えから行ったラジオ放送は、日本語がある程度理解できる外国人からは、「もっと長い番組にしてほしい」「勉強になった」などの意見を聞くことができた。また、セミナーでも「詳しく聞けてよかった」「難しい話ではないからよくわかった」などの意見があった。こういった取り組みは、外国人にとって有益で、生活の助けになっていると思う。

そして、これらの「やさしい日本語」の使い手は、日本人である。日本人が外国人にとって「やさしい日本語」が有益であること、日本人が積極的に使っていくことを理解してもらわなければならない。これを地域住民に考えてもらいたいためシンポジウムを行った。参加者は少なかったが、少しずつこういった啓蒙活動も行っていく。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

取り組みとしては評価はされているが、実際にその取り組みに参加しようとする外国人が少ない。実際の生活の方が大切であることも事実である。セミナーに参加している外国人、参加できず残念だったという外国人は、向上心もある方たちである。そういった外国人ではなく、生活していることが精一杯であったり、友人との時間のほうが楽しかったりする外国人は、参加していない。セミナーの魅力の問題か、外国人の意欲の問題か、それともどちらものかははっきりわからない。アンケート調査は参加者に対して行っているのだから、あまり参考にならない。

ii 今後の課題

セミナーにどうやったら参加してもらえるのか、どのような広報活動が有益なのか、どこと連携するのが一番有効かなどを検証していきたい。また、参加者を増やすという意味で、外国人がいる場所でセミナーを行うことも考えていきたい。実際に今年度は、当校の実習生へのセミナー、日本語学校でのセミナー実施などを行った。こういった場所でのセミナー開催も今後検討していきたい。

iii 今後の活動予定

外国人の参加者を増やしていくことはもちろん、日本人の理解者を増やすための活動をしていきたい。外国人が社会参加するには外国人側の努力だけでは達成できない。日本人側の理解、日本人側の変化が必要であると考えられる。しかし、それは容易なことではない。外国人に関わりのある方から理解を求めるのは簡単である。問題は、外国人に関わりのない方にどのようなきっかけで、どのように理解してもらうかである。そういった「外国人と関係がない」日本人をどう巻き込んでいくか考えていきたい。きっかけさえあれば、外国人の存在や、外国人に興味を持ってもらうことは簡単である。難しいところはその「きっかけ作り」である。今後もしっかりと考えていきたい。

平成25年度文化庁委託生活者としての外国人のための日本語教育事業



「やさしい日本語で教えて」
外国人が日本語教師と学ぶ日本生活情報

「やさしい日本語」って？

外国の人や、子どもでもわかる少し簡単な日本語のことです。

例えば

「川が氾濫するおそれがあります。注意避難してください」

これを「やさしい日本語」にすると、「川の水がとて多いので、危ないです。家の近くまで水が来るかもしれません。早くにけてください」となります。

どうしてやさしい日本語を使うの？

やさしいにほんごをつかうと、日本語があまり上手じゃない人も日本にすんでいて、たいせつなこと（せいきん、こどものことなど）などが、よくわかります。簡単な日本語ですから、どんな国の人でも大丈夫です。

10月から毎月第1木曜日

時間（じかん）

AM（ごぜん）

09:28~10:00

上記時間の10分間放送します。

番組の感想は

株式会社エフエム栃木

宇都宮市中央 1-2-1

TEL: 0285-32-6656

<https://www.facebook.com/yasashiihongo.tochigi>

専門家&日本語教師と学ぶ日本生活セミナー！

平成25年度文化庁委託生活者としての外国人のための日本語教育事業



知りたくありませんか？日本の生活がお得になる色々なこと！

お金のこと（税金のこと・児童手当のこと・病気のこと・病院のこと）無料で出来ること（子供の予防接種のこと・楽しいイベントの話・日本の学校のこと・日本の文化のこと）など毎回情報が盛り沢山



RAD/0 BERRY
76.4FM 熱海温泉市・宇都宮市・小山市

毎月第1木曜日 09:28~10:00 の間に 10 分間 FM栃木で放送される「やさしい日本語で教えて」という番組を基に、日本の生活の事と日本語を勉強します。

開催日・開催場所は別紙

2013年10月~2014年3月まで全部参加しても無料です。日程は別紙のスケジュール表で確認してください。月により開催日程は違います。

お問い合わせは

ティビィシー国際外語学院

栃木県小山市神山2-8-18

TEL:0285-32-6656

携帯:080-3702-8086

後援：宇都宮市

やさしい日本語を使って日本人と外国人が対等に助け合う社会を作りましょう！
(防災・PTA・自治会など外国の方の参加率が低い活動は多くあります)

レディオベリー
「やさしい日本語で教えて」
から考える

栃木県多文化共生シンポジウム

外国人と話すとき、英語で話しかけていませんか？栃木県に住む外国人は英語より「やさしい日本語」のほうがわかりやすい国の人のほうが多いです。
(栃木県外国人登録在留者数 1位：中国26% 2位ブラジル12% 3位フィリピン12% 4位ペルー11% 5位韓国9%)

栃木県で暮らす外国人は42.5%が永住者です。
栃木で生活する外国人と「やさしい日本語」で理解を深めましょう！

- 開催日
3月9日(日)
- 場所
栃木県総合文化センター
特別会議室
- 時間
13:30～15:30

※12:30から文化庁事業の資料掲示しています。

- 参加費
無料！0円
- 注意事項

駐車場は県庁駐車場をご利用ください。※出庫の際、受付印が必要です。



お問い合わせは

きぼう国際外語学院

栃木県小山市神山2-8-18

TEL:0285-32-6656

「やさしい日本語で教えて」

日本の生活が長い外国人の素朴な疑問を
日本語教師と一緒に番組に参加して
専門家に答えてもらう生活情報番組です。

毎月第1木曜日

レディオベリー(76.4FM)にて
午前09:28～10:00の間の
10分間放送しています。

